

令和 6 年能登半島地震対応 職員出発式と DMAT の市長報告 SCENE 1



職員出発式



被災地での住家被害認定調査業務



DMAT による報告会



元 旦に発生した、令和 6 年能登半島地震の対応で、2 月 6 日に、派遣職員の出発式を行いました。派遣期間は、2 月 7 日～ 14 日で、住家被害認定調査業務等の支援を行いました。派遣された職員は「微々たる力だが少しでも被災者の不安を払拭できるよう支援した」と話しました。また、2 月 7 日には、山陽小野田市民病院の災害派遣チーム (DMAT) が 1 月 26 日～ 29 日の派遣期間を終え、市長に現地の様子や支援活動の報告を行いました。支援活動は主に高齢者施設の支援で、派遣された医師は「被災地を訪れて一番大切なことは継続的な支援と痛感した」と話しました。被災地の 1 日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

SCENE 2 市から感謝状の贈呈 建物火災で救命活動に協力

1 月 5 日に赤崎二丁目の住宅で建物火災が発生。さくら保育園の職員が 119 番通報のほか、地域の高齢者や被災した住民に避難行動の呼びかけや誘導を行いました。職員の行動は感謝に値する貢献または善行であるため、1 月 31 日に市役所で感謝状の贈呈を行いました。



受賞した 3 人
(左から早崎菜乃さん、西山水都さん、井手柚希さん)

SCENE 3 1 年前からゴミ拾い 小学生が善行賞表彰受賞

週 に 1 ～ 2 回、放課後にゴミ拾いを続けている須恵小学校 6 年生の 3 人が青少年善行賞表彰を受賞し、2 月 7 日、表彰式が行われました。1 年前、学校でゴミ問題に触れたのがきっかけ。受賞した井手柚希さんは「地域がきれいになると嬉しい。卒業後もできるときは続けたい」と話しました。